

about Tanseisha Group

丹青社のグループ会社であり、ディスプレイのプロフェッショナル集団である株式会社丹青ディスプレイ。チームワークと卓越した技術力を武器に、装飾・展示・イベントにおける企画、デザイン・設計、制作・施工までをワンストップで手掛ける同社の強みや独自性について、推進統括部統括部長の佐藤氏に話を聞きました。



あらゆる領域の空間演出をワンストップで実現する 丹青ディスプレイの現在とこれから



佐藤 就

株式会社丹青ディスプレイ 推進統括部 統括部長

2005年に丹青ディスプレイにキャリア入社。前職での経験を活かしながら活躍フィールドを広げ、営業として顧客対応から協力会社とのやりとり、納品後の請求管理まで一連の業務に携わる。現在は推進統括部の統括部長として、商業・文化・プロモーションの3部門を管轄。

01 少数精鋭だからこそそのチームワークとクオリティ

私たち丹青ディスプレイは、短期的な催事を主に扱っており、ディスプレイ・空間演出のプロフェッショナルとして装飾・展示・イベントにおける企画、デザイン・設計、制作・施工をワンストップで提供しています。丹青社と事業領域を住み分けることで幅広くお客さまのニーズに対応し、グループ全体で付加価値をより生み出しています。テーマパークや百貨店などのウィンドウを幅広く担当する商業ワイド部、美術館や博物館の企画展などを担う文化イベント部、イベントや展示会を中心としたプロモーション部の3つの部門で成り立っており、それぞれの専門性を活かしてお客さまの期待以上の空間を届けられるよう、日々の業務に取り組んでいます。

少数精鋭の組織なので、特定の役割にとらわれずにチームワークを発揮してプロジェクトを推進できることが最大の特徴です。豊富な経験を持つベテランから、フレッシュな視点で新しい技術や演出を提案できる若手まで、チーム一丸となって細部のクオリティにこだわり、妥協することなく空間づくりに向き合っています。チームワークとクオリティを評価いただき、アニメイベントの事務局工事や周年で開催されている大型イベントの会場施工も含めて継続的に受注するなど、お客さまからの信頼を積み重ねることができていると自負しています。

また、特定の分野に偏らず幅広い領域の空間づくりに対応しているため、それぞれの知見を活かした空間づくりができることも強みです。私自身は3つの部門を管轄する立場なので、部門を横断したプロジェクトを増やし、会社としてのチームワークをより高めていこうと試行錯誤しているところです。

02

著名アーティストとの豊富なコラボレーション実績

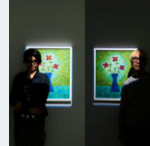
丹青ディスプレイの特徴として、著名なアーティストとのコラボ実績が豊富なことも挙げられます。古くからお付き合いのあるアーティストの方も多く、案件を通して継続的にコラボレーションを実現、特徴的な催しを実施してきました。

例えば、昭島市にある大型商業施設「モリタウン」のリニューアルプロジェクトでは、花をモチーフにした作品で知られるミレイヒロキさんとタッグを組み、「森に咲く花」をコンセプトにあらゆる手法を用いて作品を制作・展示。巨大バルーンや通路の装飾のみならず、ライブペインティングや子供が参加できるワークショップなどさまざまな取り組みに一貫したテーマで賑わいづくりを行いました。



ミレイヒロキさん

ミレイさんとヒロキさんの2人で1人の芸術家として活動。クレヨン、アクリル、スプレーなど多彩な画材を使用して描かれた花をモチーフとした作品が特徴。作品はTONNEINS(仏)の近代美術館、スペイン王室などに永久保存されている。



また、世界的な特殊メイクアーティストAmazing JIROさんとも、複数のイベントなどでコラボさせていただきました。2018年に恵比寿で開催した「Re 又造 MATAZO KAYAMA展」では、ボディペイントなどを用いて画家の加山又造の作品を新たな解釈で再現した作品を制作いただき、展示しました。

Amazing JIROさん

映画、ドラマ、CM、広告、イベント、ファッションなど、ジャンルを超えて多方面で活躍する特殊メイクアーティスト。世界70カ国で読まれている『Make-up Artist Magazine』にて「世界の注目アーティスト10人」に選出。



今後は、強みであるチームワークにより磨きをかけていくことはもちろん、新たなお客さまとの取引も増やしていくために、営業力の強化にも力を入れていきたいと考えています。これまで受け継いできた技術力や培ってきた実績はさまざまな空間に活かせるはずなので、特定のジャンルに固執することなく裾野を広げていきたいです。

MESSAGE 代表メッセージ



株式会社丹青ディスプレイ 代表取締役社長

岩尾 浩二郎

新型コロナウイルスの流行やテクノロジーの進化によって、人々が空間に求める価値は大きく変わってきています。現代のデジタル社会においては「いつでも・どこでも」が当たり前ですが、私たちはむしろ「今だけ、ここだけ」の価値、つまりこれまで得意としてきた短期展示空間というメディアでこそ、これからのニーズに応える体験価値を届けることができると考えています。特にテーマパークやゲームやアニメの関連イベントなどのエンターテインメント領域は、空間演出のみならず展示や物販や飲食や宿泊などさまざまな専門性が求められるため、広範囲にワンストップで対応できるグループの強みを活かす中核事業になっていくと考えています。今後も時代の流れを読みながら成長していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



TOPICS

直近で下記ニュースリリースを配信しました

<ニュースリリース>

こちらから詳細を
ご覧いただけます

■2024.06.03 配信

丹青社と一般社団法人日本障がい者サッカー連盟が 賛同パートナーシップ契約を締結

丹青社と一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(東京都文京区、会長:北澤豪、以下JIFF)は、2024年6月1日に賛同パートナーシップ契約を締結しました。JIFFが連携協力協定を締結している東京都港区内に本社を構え、2023年度より区内での障がい者サッカー活動を支援しています。また、丹青社のグループ会社である株式会社丹青ヒューマネットと連携し、区内の小中学校向けに障がいや障がい者サッカーについて学ぶ教育授業等を届けています。今後は更に連携を深め、共生社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。



■2024.06.18 配信

工芸作品のプラットフォーム「B-OWND」、 美術工芸展「Beautility: The Betweenness of Kogei」に企画協力 ～B-OWNDの展示協力として、過去最大規模の展示・出品数を実施～

丹青社がサービスを提供するアート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND(ビーオウンド)」は、寺田倉庫株式会社が主催し6月27日(木)より開催する「TENNOZ ART WEEK 2024」のプログラムとしてアートギャラリーカフェ「WHAT CAFE」にてオープン以降初めて実施される、若手アーティストを中心とした美術工芸展「Beautility: The Betweenness of Kogei」に企画協力いたします。B-OWNDの展示協力としては過去最大規模の約800㎡の展示・200作品を超える出品数となります。今後もB-OWNDが掲げる「すべての人をアートの当事者に」というミッションのもと、より多くの方にアートを身近に楽しむための機会を創出し、アート・工芸作品の普及および日本におけるアートマーケットの拡大への貢献を目指します。



■丹青社について

「ここを動かす空間づくりのプロフェッショナル」として、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、人が行き交うさまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなっています。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出や運営まで、空間づくりのプロセスを一貫してサポートしています。

社名 : 株式会社丹青社
所在地 : 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F 〒108-8220(本社)
創業 : 1946年10月
資本金 : 40億2,675万657円(2024年1月31日現在)
上場 : 東京証券取引所プライム市場(証券コード:9743/業種名:サービス業)
URL : <https://www.tanseisha.co.jp>

本ニュースレターに関するお問い合わせ・取材のご依頼

株式会社丹青社 広報室 担当:石綿、寺戸

Mail: pr-staff@tanseisha.co.jp Tel: 03-6455-8115

お問い合わせフォーム: <https://www.tanseisha.co.jp/contact/pr>